はれるんマガジン

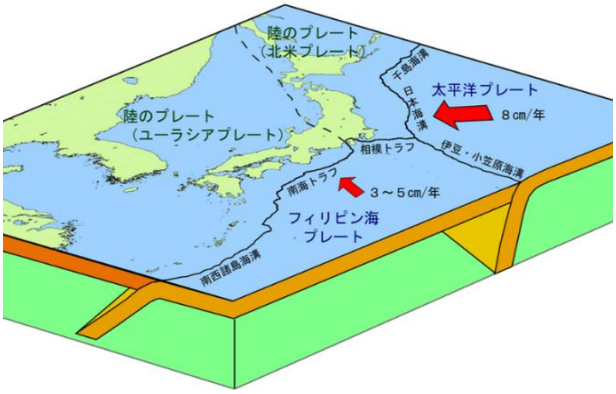
～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～　発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

「南海トラフ地震」って何だっけ？

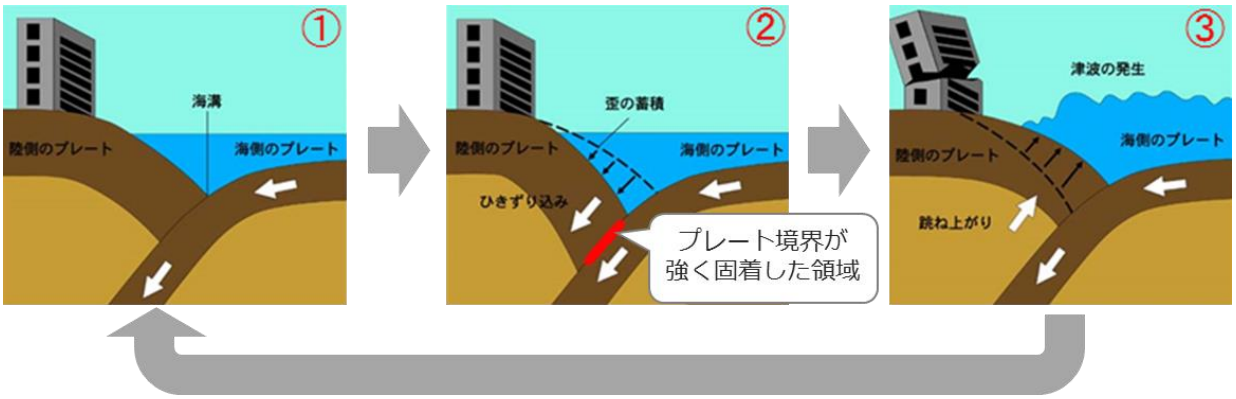
■南海トラフ地震とは？？

駿河湾から日向灘沖にかけて、海底の地形が溝状になっている場所があります。この部分を「南海トラフ」といいます。ここでは海側のフィリピン海プレートが陸側のユーラシアプレートの下に潜り込んでいます（①）。その際、プレートの境界が強く固着して陸側のプレートが地下に引きずり込まれ、ひずみが蓄積されます（②）。陸側のプレートが引きずり込みに耐えられなくなり、限界に達して跳ね上がると地震が発生します（③）。これが「南海トラフ地震」です。①→②→③の状態が繰り返されるため、南海トラフ地震は繰り返し発生します。過去を調べると、約 100～150 年の間隔で大規模（マグニチュード 8 から 9 クラス）な地震が発生しており、現在は、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944 年）・昭和南海地震（1946 年））が発生してから約 80 年が経過しているため、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。



日本付近のプレートの模式図

なお、南海トラフ地震のうち科学的に想定されている最大クラスのものを「南海トラフ巨大地震」と呼んでいます。

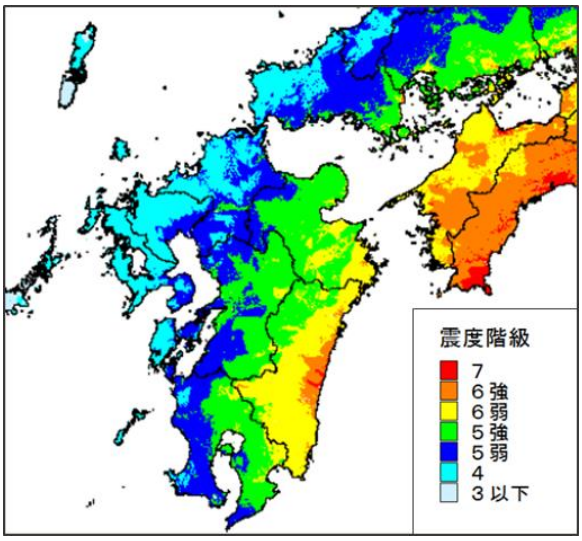


南海トラフ地震の発生メカニズムの概念図

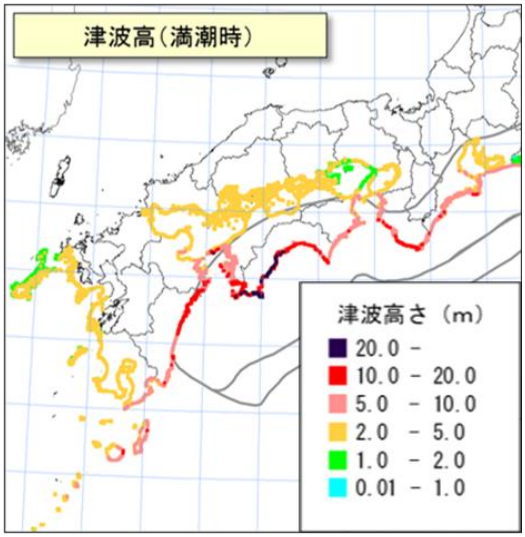
■どのくらい揺れる？津波は？？

南海トラフ巨大地震の被害想定（政府の中央防災会議）によれば、静岡県から宮崎

県にかけての一部では震度７となる可能性があるほか、隣接する広い地域でも震度６強から６弱の強い揺れになるとされています。また、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に 10m を超える大津波の襲来が想定されています。福岡県では、最大で震度５強および 4m の津波が想定されています。



南海トラフ巨大地震の震度分布※1



南海トラフ巨大地震の津波高※2

「南海トラフ巨大地震の被害想定（第二次報告）」（中央防災会議 2013）より
※1 複数想定されるケースの最大値の分布
※2「室戸岬沖」と「日向灘」に「大すべり域＋超大すべり域」を２箇所設定した場合

■南海トラフ地震の発生に備えて

南海トラフ沿いでマグニチュード 6.8 以上の地震や通常と異なる現象（ゆっくりすべりなど）が発生した場合、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」を発表し、巨大地震発生の可能性を調査します。その後、調査結果として、「巨大地震警戒」「巨大地震注意」「調査終了」のいずれかのキーワードをつけた南海トラフ地震臨時情報を発表します。

「巨大地震警戒」は津波からの避難が間に合わない地域からの事前避難等を呼びかける情報、「巨大

地震注意」は地震への備えの再確認を呼びかける情報であり、どちらも『これまで以上に南海トラフ巨大地震が発生する可能性が高まっている』ということを知らせる情報です。正しく理解し、日頃から地震へ備えておきましょう。

ご意見をお待ちしています

問合せ先
〒810-0052　福岡市中央区大濠 1-2-36
福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部
電話：　092-725-3614
e-mail：　fukuoka_bousaichosa@met.kishou.go.jp

次回の発行は 2024 年 11 月の予定です。